

東京バッハ合唱団 月報

[第 610 号] 2013 年 4 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101 <http://bachchor-tokyo.jp/>
Tel: 03-3290-5731 Fax 専用: 03-3290-5732 郵便振替: 00190-3- 47604
Mail: office@bachchor-tokyo.jp (変更) bachchortokyo@aol.com (2013 年 2 月閉鎖)

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No. 610

April 2013

—
5-17-21-101 Funabashi,
Setagaya-ku, Tokyo

3 回目の《マタイ受難曲》を終えて、感謝と展望

— 第 108 回定期演奏会 速報 —

大村恵美子 (主宰者)

総力結集の《マタイ受難曲》を、生涯に 3 回も体験する果報者は、世の中にも稀な人々と言えるでしょう。第 1 回 1982 年のそれは、翌年の初の欧州巡演の成果を引きだしました。第 2 回 2007 年のそれは、5 度目の欧州巡演と、「バッハ 4 大作品連続演奏」という、考え得る限りの大成果につながりました。

そして、去る 3 月 30 日、その 50 周年記念イベント「連続演奏」(2011 年-2014 年)の中心に据えられた、第 3 回目の《マタイ受難曲》が、過去最高の出来!?!と受け入れられたのです。

2007 年の合唱団出演者は、159 名 (うち児童合唱 32 名) という、創立以来最大の規模でしたが、今回は団員募集の努力の甲斐もなく、直前に諸事情で降りざるを得なくなった数名を入れて、77 名 (うち児童 22 名) と、最少でした。会場は、1982 年の新宿文化センター (1800 席)、2007 年の杉並公会堂 (1190 席) に比べ、今回の紀尾井ホールは、800 席と小ぶりでしたが、典雅な趣きの快適な会場であり、結果的には、当日のアンケート (後出) の内容が証するように、聴衆からも出演者からも、かつてないほどのご満足がいただけたようです。気がかりだった収支も、ほとんど軽微な赤字で済みそうです。直後の現在なので、経過の正確な分析は行えませんが、前 2 回の《マタイ受難曲》では、大ホールでの黒字を盲人施設に寄付するという余裕もあったのに、今回はまさに綱渡りでした。

しかし、演奏内容にかぎって考えると、さすが 6 年前から引きつづいて練習を重ねただけに、落ち着いて全体にみがきをかける余裕が、たしかにあったと思います。前回から再度の出演となる経験者が、児童も入れて 24 名も残っていたことでも、それはうかがえま

す。うち 2 名は、児童合唱から今回はおとなの 4 声部合唱に移った高 2、小 6 の室田悠介、真由さんでした。

当日の様子は、アンケートのご紹介と次号あたりでの評言にゆずり、私はただひたすら感謝の気持ちだけを、天・地・人のすべてに向かって伝えたく思います。

× × ×

さて、今回の結果から、何がひきだせることになるのでしょうか。もちろん、三度目の正直とって、これが限界だった、と、アデューにゆきつくことだって大いに考えられました。体力的、経済的な極限状態は、容易に想像できることでした。ところが実際は、みんなもう打ち上げのときから、疲れを見せない元気で、2 日後の練習にもぞくぞく集まって、来年 3 月予定の《ヨハネ受難曲》の初見が早々と始まってしまったのです。

また特徴的なことのひとつに、今回は北海道、東北、九州と、遠くからの団員が練習に通い、ステージに加わったこと、さらに聴衆にも、多くの遠隔地からの来場者がいらしたことです。事務局で知り得たかぎりでも、関東近県はもちろん、釧路、札幌、弘前、大船渡、仙台、新潟、長野県飯田、長野県小布施、山梨県中央、豊橋などからのチケット購入者がいらっしやいました。ホームページやフェイスブックなどの告知とコミュニケーションの手段の変化が、このような結果に結びついたものと思われます。今後は、アナログそのものの私などには想像できないほどの大変化が、クラシック



■ 第 108 回定期演奏会《マタイ受難曲》(2013 年 3 月 30 日、紀尾井ホール)
(VIDEO 画像より採録、次ページ写真とも。松尾茂春氏提供)

音楽の世界にも現れるのかもしれませんが。

ところで、3・11以来、私の心に低迷していた、当合唱団の東北との接触の問題が、だんだんと表に現われてくるようになりました。後援会員、団員、団友、共演して下さる演奏者、あらゆる関係者の中に、被災地域と深いつながりをもった方々がいらして、そのみなさんと知恵を結集して、合唱団が実現の一步を踏み出せる機運が、感じられてきました。

主宰者である私の素案を、ここで広く述懐して、なるべく早い時機に、まずプロジェクトの輪郭を立ち上げたいと思います。

○東北地方の、大船渡、仙台その他2,3か所で、定期演奏会に準じるような内容の演奏会を無料で開催する。

○できれば、2年後の2015年8月前半、例年の野尻湖演奏会の時期に、小規模のオーケストラと合唱団、ソリストで演奏。

○受け入れをお願いできる関係者と、2年がかりの緊密な計画を練る。

○必要な資金計画を立てる。助成・協賛卒などへの申し込みを始め、一般からも募る。過去5回の海外公演の経験などを参考にする。

○バッハの音楽が、現に私たち演奏者を大きく元気づけている体験から、あらゆる日本在住の方々に、その効果を広く伝え、私の人生一代かぎりでない、幅広く末永いバッハ音楽の普及へと開く、大きな機会とする。

< 終了報告 >

第108回定期演奏会《マタイ受難曲》

創立50周年記念

「バッハ4大合唱作品 [日本語] 連続演奏」Ⅲ

3月30日(土) 14時開演、紀尾井ホール

エヴァンゲリスト/テノール：鏡 貴之
イエス/バス：渡邊 明
ソプラノ：光野孝子 アルト：佐々木まり子
テノール：鳥海 寮 バス：藪西正道
オルガン：草間美也子
管弦楽：東京カンタータ室内管弦楽団
合唱：東京バッハ合唱団
ソプラノリピエーノ：東京バッハ児童合唱団
指揮/訳詞：大村恵美子



3.11 被災地巡演プログラム (大村素案)

公演タイトル：「大災害に耐えて」

- ・カンタータ第14番《かたえに 主いませずば》
- ・カンタータ第81番《主イエス眠り いかによすべき》
- ・カンタータ第92番《わが心 思い 神にゆだねたり》
- ・モテット第3番《イエス 喜び》BWV 227

本報に挟み込みで、上記全4曲の日本語歌詞をお届けいたします。昨年来、考え続けている演奏プログラムを、各位にご検討いただきたく、どんな方でも、どんなお申し出、ご教示でも、ご遠慮なく早急にお知らせくださいますよう、お待ちしております。

第108回定期演奏会

《マタイ受難曲》を聴いて

◆久保庭さん、安倍です。

昨日は素晴らしい演奏でした。合唱もオケ、ソロと一体感があり、アマチュアの演奏会というのではなく、完全にプロの演奏会として通用するものだと思います。

大村先生は遅めのテンポで激しい表現を避け、淡々とした演奏を目指していたように聞こえましたが、それで物足りないということはありませんでした。オケのヴィブラートを抑えていましたが、その場合はともすれば強いアタックやテンポの変化で、激しい表現になりがちですからね。オケも良かったですね。特にオーボエのソロは素晴らしかったです。どこで吹いている方なのでしょう？

独唱も良かったです。何と言ってもエヴァンゲリストが大活躍で、彼の良さが演奏会の成功に大きく貢献したのだと思います。日本語での演奏は、エヴァンゲリストは良く聞き取れましたが、他のソロや合唱はプログラムを見ながらでないと、意味が分からないことが多く、私的には原語で字幕付きが良かったかなと。

終曲の合唱はいつ聴いても感動します。大昔、みんな浅草の久保庭さんのお宅に泊り、翌朝二日酔いで布団の中で朦朧としている中、この曲が流れてきたのを思います。私の初めてのマタイ経験でした。

アマチュアといっても、あのウィーン楽友協会の合唱団もアマチュアですし、これからも益々素晴らしい演奏を期待します。ありがとうございました。

【団員B久保庭重夫さんから、転送メールをいただきました。オーボエ・ソロの辻功氏は、読売日本交響楽団の首席奏者です。

◆森野 善右衛門 様

正味3時間半の演奏時間が、あっという間に過ぎた感じで、ソリスト、コーラス、オーケストラのアンサンブルも見事、児童合唱隊まで加わって、マタイのテキストとバッハの信仰の告白が今日に生き、語りかけ

て来るような感銘を受けました。

大村恵美子さんはじめ団員のみなさま、ありがとうございました。次回にも期待しています。

とくに日本語の歌詞で演じられたことにより、内容的にも分かりやすく、脚本を目で追いながら、舞台の全体にも目を向けて聞くことができました。

ソリストのなかではエヴァンジェリスト、バス、それにイエスの歌い手が印象に残りました（イエスの死の場面で起立していたこと）。

紀尾井ホールは初めてでしたが、地の利を得て、たいへん聴きやすい良い会場であったと思います。土曜日の午後という時間の設定も、地方からの参加者にとって好都合でした。

【前橋市にお住まい。団友、ボンヘッファー研究者、巡回牧師】

◆団員 B 本田茂樹氏のご招待者、岩崎様

本日は定期公演の大成功おめでとうございます。今までに何度も御案内を頂きながら行けなかったのですが、今回拝聴させていただくことができ感無量でした。本当にありがとうございました。

ロビーでもお話しとおおり、日本語での演奏は、日本では歓迎すべきことだと思います。翻訳には常に言語の壁が伴いますが、その難しさを乗り越えての日本語演奏は野心的であり、敬意を表します。そもそも宗教音楽ですので、聴衆も勉強して臨むべきと思いますし、あえて誤解を恐れずに言えば、言語を超えて、響きによって伝えることができるのが音楽の素晴らしさのように思います。

私は、本日の公演の拝聴は、パンフレットの歌詞を見ず、耳に入る音、体に感じる振動に集中しました。しかし、こう考えてみると、音楽は奥が深いですね。子供のころから聖書はつまみ読みしてましたし、宗教に関心もあり、バッハの音楽は TDK の DVD シリーズで

聴いていましたので、自分なりに理解して拝聴できたように思っています。

本日は、合唱の皆さまが一番華やかだったと感じています。もちろんオケの皆さまも素晴らしかったです。音楽が出来るって羨ましいです。今後も拝聴できれば幸せです。本日は本当にありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

【団員 B 本田さんからのメール：

コンサートにご招待した岩崎様（元在香港日本領事館領事）より、以下のとおり感想を戴きましたので、ご紹介します。ロビーにて、開ロ一番「日本語のほうがいいなあ！」でした】

アンケートより

43 通の回答を頂戴しました。どれにもお心の籠ったメッセージ、叱咤、お励ましがあり、団員一同、ひとつひとつを拝読させていただきました。次回からの糧とさせていただきます。ありがとうございました。以下に、一部をご紹介させていただきます。

■演奏全般について：

○とてもよい演奏会でした（大曲なのに全くあきなかった）。合唱・オケ・ソリスト共に、時間とともに盛り上がり、イエスの処刑の時は感動した。50 年の重みを感じた。クリスマスオラトリオ、楽しみにしています。
○合唱：高音のところで、あとちょっとと↑と望みたくなるところはありましたが、全体としては満足しています。あと、「入り」がちょっとというところか。
○しっかりした輪郭の堂々たる演奏。大きな弧をえがいて終曲を迎えたので、涙がとまりませんでした。
○福音史家はすばらしい歌唱力だ。エヴァンゲリストとして日本では最高ではないか。合唱も、抑制のきいた響きとハーモニーで、受難曲にふさわしい。
○ソロでは、ソプラノ・アルト二重唱、それに数多いアルト独唱など、どれも圧巻。
○マタイ受難曲は、今までに 3 回鑑賞した中で最高。
○補聴器を装着するようになって、本来の音が聞こえなくなり、音について何も言えなくなりました。しかし、そのようになった老人にも、音楽を聴くことが必要だと感じました。アマチュア集団の良さが発揮されたために、感銘が残ります。

■とくに、日本語演奏について：

○バッハがそのまま心に入ってくるようで、うれしかった。いちいち訳を読み合わせずに、そのまま音楽とひとつとなって味わえる経験はすばらしいです。
○日本語で歌うことの良さが、まだ引きだされるに到っていないと感じました。日本語で歌っても、讃美歌は讃美歌だと言われるようになったと思いますが、バッハの歌についても、同じようになれると思います。
○原語演奏がまだまだ主流ですが、大村先生の、日本人には日本語で、と上演しつづけておられる姿に、感銘を受けています。

【次ページへつづく】

東京バッハ合唱団

野尻湖コンサート「バッハ作品の午後」

2013 年 8 月 10 日（土）4:00 PM

野尻湖・神山教会（NLA 内）

— 入場無料 —

プログラム

1. チェロ独奏：

《無伴奏チェロ組曲 第 1 番》BWV 1007 より

2. 合唱（日本語演奏）：

カンタータ第 76 番《主の栄光を 天は語り》

3. みんなで歌いましょう：

コーラル《イエス わが喜び》

（カンタータ第 147 番より）

ピアノ：金澤亜希子

チェロ：船田裕子

合唱：東京バッハ合唱団

指揮/訳詞：大村恵美子

問い合わせ：東京バッハ合唱団

2013-2014 シーズンの活動予定	
2013 年	
4 月, 5 月練習 : 《ヨハネ受難曲》	
6 月, 7 月練習 : 《W=O》IV-VI、カンタータ第 76 番 8/8 (木) -8/11 (日) 野尻湖合宿	
◆8/10 (土) 午後 4 時、野尻湖神山教会 (NLA 内) ・野尻湖コンサート (前ページに詳細)	
8/17 (土)、8/24 (土)、8/31 (土) 【月曜日は休暇】 短期強化練習 : 《ヨハネ受難曲》	
9 月-11 月練習 : 《W=O》IV-VI、カンタータ第 76 番	
◆12/7 (土) 午後 2 時、杉並公会堂 (第 109 回定期) ・《クリスマス・オラトリオ(W=O)》IV-VI ・カンタータ第 76 番《主の栄光を天は語り》	
12 月練習 : 《ヨハネ受難曲》	
2014 年	
1 月-3 月練習 : 《ヨハネ受難曲》	
◆3/15 (土) 午後 2 時、杉並公会堂 (第 110 回定期) ・《ヨハネ受難曲》	

○物語の内容が分かってよかった。とくに福音史家の方の歌声にひきつけられた。合唱の歌詞がよく聞き取れず、残念でした。

○日本語だからなお共感した!! と言えると思います。

○何と素晴らしいことか。ミサ曲は別としても、このように曲の流れ、ことばの流れを理解しやすく聴いたのは初めての経験。プログラムの和訳文と併せて聴き、とても良かった。敬意を表します。大感動。

○受難曲は日本語演奏に特に向いていると思いました。レチタティーヴォが意味が分かってドラマ性が強まります。バッハの音型と単語のつながりが良くわかりました。

○日本語で演奏することは大切と思う。とくに、バッハがユダに対してもペテロと同じ救いを与えているのが良くわかり、感動した (42. アリア)。

○コンセプトはとても良いし、いちいち対訳と照らし合わせる必要がないので鑑賞に集中できた。惜しむらくは、子音がはっきり聞こえなくて、せっかくの日本語がよく生かされなかったところがあったこと。

■その他、本日の運営全般、会場について等、何でも :

○とてもよい音響のホールで、バッハの世界にひたることができました。どうもありがとうございます。

○初めて聴く曲だったので、プログラムに解説があるとありがたかった。

[あまり分厚くなるので、「手引き」を別冊として、ご希望の方にお分けしました : 編集部]

○指定席にさせていただきたい。

○マタイがまた一歩、近くなりました。ありがとうございました。

○私は、約 45 年ぶりに東京バッハ合唱団の演奏会に足を運びました。牧師であった夫とともに拝聴し、今、3 年前に召された夫とともにここにいます。ありがとうございました。

バッハ・カンタータと教会暦の聖句一覧 ②	
BWV 11 《頌めよ 神のみ国》(昇天祭オラトリオ、1735) Lobet Gott in seinen Reichen (Himmelfahrts-Oratorium)	【教会暦】 昇天節(他に BWV 37, 43, 128) [書簡]使徒言行 1:1-11. 話し終わると、イエスは彼らが見ているうちに天に上げられた。 [福音書]マルコ 16:14-20. 主イエスは、弟子たちに話した後、天に上げられ、神の右の座に着かれた。
BWV 12 《泣き 嘆き 憂い 迷い》(1714) Weinen, Klagen, Sorgen, Zagen	【教会暦】 復活節後第 3 日曜日 (BWV 103, 146) [書簡]第 1 ペトロ 2:11-20. 自由な人として生活しなさい。神の僕として行動しなさい。 [福音書]ヨハネ 16:16-23. 悲しみは喜びに変わる。わたしの名によって父に願うならば、父はお与えになる。
BWV 13 《ため息 涙は尽くることなし》(1726) Meine Seufzer, meine Tränen	【教会暦】 顕現節後第 2 日曜日 (BWV 3, 155) [書簡]ローマ 12:6-16. 喜ぶ人とともに喜び、泣く人とともに泣きなさい。 [福音書]ヨハネ 2:1-11. カナの婚礼で水がぶどう酒に変わる。
BWV 14 《かたえに 主いませずば》(1735) Wär Gott nicht mit uns diese Zeit	【教会暦】 顕現節後第 4 日曜日 (BWV 81) [書簡]ローマ 13:8-10. 隣人を自分のように愛しなさい。人を愛する者は律法を全うしている。 [福音書]マタイ 8:23-27. 舟で眠っていたイエスが起きて海の嵐を鎮める。
BWV 16 《主 頌め歌わん》(1726) [BWV 15 は偽作] Herr Gott, dich loben wir	【教会暦】 新年 (1/1 固定) (BWV 41, 143, 171, 190) [書簡]ガラテヤ 3:23-29. 洗礼を受けてキリストに結ばれた者は、奴隷ではなく、神の子である。 [福音書]ルカ 2:21. 八日たって割礼を迎えたとき、幼子はイエスと名付けられた。
BWV 17 《感謝ささげ 頌め歌う者に》(1726) Der Dank opfert, der preiset mich	【教会暦】 三位一体節後第 14 日曜日 (BWV 25, 78) [書簡]ガラテヤ 5:16-24. 霊は愛の実、平和を結び、肉の業によっては神の国を受け継げない。 [福音書]ルカ 17:11-19. 重い皮膚病患者をイエスが癒す。サマリヤ人ひとりだけが、神を賛美するために戻ってきた。
BWV 18 《み空より 雨 雪 降り》(1714) Gleichwie der Regen und Schnee vom Himmel fällt	【教会暦】 復活節前第 8 日曜日 (BWV 126, 181) [書簡]第 2 コリント 11:19-12:9. 弱さ以外には誇るまい。「力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」とイエスは言う。 [福音書]ルカ 8:4-15. 良い土地に落ちた種は、生え出て 100 倍の実を結ぶ。
BWV 19 《戦い かくて起これり》(1726) Es erhob sich Streit	【教会暦】 大天使ミカエルの祝日 (9/29 固定) (BWV 50, 130, 149) [書簡]黙示録 12:7-12. 天で戦いが起こった。ミカエルとその遣いたちが、竜に戦いを挑んだ。 [福音書]マタイ 18:1-11. 心を入れ替えて子供のようにならなければ、天国に入ることはできない。
BWV 20 《雷(いかずち)の言葉 おお なんじ永遠よ》I (1724) O Ewigkeit, du Donnerwort I	【教会暦】 三位一体節後第 1 日曜日 (BWV 39, 75) [書簡]第 1 ヨハネ 4:16-21. 神は愛。神を愛する人は、兄弟をも愛すべきである。 [福音書]ルカ 16:19-31. 死後、金持ちは陰府で苦しみ、貧乏人ラザロは宴席につれてゆかれる。
BWV 21 《われは 憂いに沈みぬ》(1713?) Ich hatte viel Bekümmernis	【教会暦】 三位一体節後第 3 日曜日 (BWV 135) [書簡]第 1 ペトロ 5:6-11. 神ご自身が、しばらくの間苦しんだあなた方を完全な者とし、強め、力づけ、揺らぐことがないように。 [福音書]ルカ 15:1-10. 悔い改める 1 人の罪人については、…必要のない 99 人の正しい人についてよりも大きな喜びが天にある。